



建築構造に関する次の 1～5 の記述のうち、最も不適当なものを 2 つ選んで、解答欄の番号にマークしなさい。（1 行に 2 つの番号をマークしないこと）

- 1 日本で飛躍的に構造技術が発達したのは、仏教建築の技術が伝えられた飛鳥時代以降であり、その後、古代の書院造りから中世の寝殿造へと変化した。
- 2 日本では、第二次世界大戦後に建築基準法が制定され、次第に耐震、耐火性能などが高められた。
- 3 建築物に加わる水平力には、地震力、風圧力、積雪荷重などがある。
- 4 コンクリート打ち放しの仕上げ面、立体トラスの小屋組などは、構造体自体がインテリアのデザインの重要な要素となる場合がある。
- 5 日本で使われている構造体の種類には、木構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造、補強コンクリートブロック構造がある。

1×

日本で、構造技術が発達したのは、飛鳥時代以降であるが、住宅の建築様式の流れとしては、古代・平安時代の貴族の住まいである「寝殿造り」から、中世・室町時代の武家の住まいである「書院造り」へと変化した。

2○

建築基準法が施行されたのは戦後の昭和 25 年で、国民の生命・健康・財産の保護のため、建築物の敷地・設備・構造・用途についてその最低基準を定めた。特に日本では、耐火性能や火災時の避難についての構造、その後の大地震等より、高い耐震性が求められている。

3×

建築（構造物）が外部から受ける力である荷重には、建物自体の「固定荷重」、人や家具などの「積載荷重」、屋根等に載る雪の「積雪荷重」、大風など強い風の「風圧力」、地震の揺れの「地震力」がある。このうち、水平力は「風圧力」と「地震力」である。

4○

コンクリート打ち放し仕上げとは、鉄筋コンクリートの素材をそのまま仕上げとするもので、自由な造形が可能なコンクリートによる立体トラスや重量感のある柱や梁など、光沢のあるグレーの質感は、インテリアデザインとしても美しい。

5○

構造体の種類を材料別にみると、日本では、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造などがある。建築と材料の関係は、その土地の風土や産出する材料の影響を受け、ヨーロッパの石造やレンガ造、中東やアフリカなどの土造、東南アジアの竹造、北極圏の氷造などがあり、鉄、コンクリート、ガラスは 19 世紀以降の工業製品を材料としたものである。